

特集

Interview

テーマ

「音楽の まちづくり」

音楽のまちづくりを進める本市、平成28年春頃には、市民ホールが完成いたします。市民ホールの活用を含め、音楽のまちとして目指す姿や活動はどうするべきか、本市の音楽活動にかかわる方々に「音楽のまちづくり」をテーマに取材を行いました。

市民ホールを、音楽を通じて

文化の発信地にしていきたい。

Q 音楽のまちづくりで気になること、思うことは何かありますか。

西村 東広島には演奏団体はたくさんあるのですが、市民ホールの練習場含め施設が足りていません。

Q 音楽のまちづくりの目指す方向をどのように考えますか。

西村 例えば海外とか国内と

か有名な演奏家に来て、「あのホールには絶対行かない。」と言われないようにしてほしいですね。そのためにも、芸術文化に理解のある人によって市民ホールを運営していただきたいですね。

枝川 音楽でまちづくりをしようというのは音楽によって人と人をつなげる、音楽自体で人間を幸せにできる

し、感動できるっていうことだと思いますね。

藤原 日本は、世界でも大きな国になっていくんだから、ここらで発想の転換が本当は必要なんじゃないかな。本当に、子どもを育てたり、文化を育てたり、そういうことは、

せっかくこんな立派なものができるんだから、そこを中心に、市民の心に響くようなものを、ぜひとも企画して運営

をしてもらいたい。

Q 市民ホールの完成に向けて、音楽のまちづくりの夢を語ってください。

もり ホールっていうのは、音楽がよくて、聞きに行きたいと思えばどこにでも行きませんが、今回立地もすごくいいし西条の観光でも酒蔵、くぐり門にコンサートとうまくやれば通過型だけで終わらない





可能性が出てきますね。
枝川 昼休みになって空いていけば、みんな昼寝してもいいですよって、それで音楽をかけておくとか、中でやっていることが、外からちよっと見える。じゃあ今度お金払って入ってみようとか。

Q 最後に何か、一言お願いします。

もり 市民ホールに関わって、何か皆さんのお役に立てるような企画、プロを目指す人の第一歩をスタートさせるようなことや、※エル・システマなど、何かないかというも思っています。

西村 今日は市議会議員さんに話を聞いていただいてうれしく思っています。しかし、東広島市は音楽的にはまだまだ発展途上であり、芸術にお金をかけることは家庭でいえば教育費であるということを確認していただきたいですね。

藤原 本当にここが市の中心になって、市の文化の発信地になり、市民の心を育てるんだと考えれば、極端なことを

言ったら、この利用にいくら税金を使ってもいいよというくらいの発想で市長をはじめ議員のみなさんも取り組んでいただきたいと思います。

※エル・システマ：ベネズエラで行われている公的融資による音楽教育プログラム
 の有志組織

※写真右側から

○もりてつや音楽教室

主宰 もり てつや氏

○広島大学教育学研究科

教授 枝川 一也氏

○東広島ウインドアンサンブル

前団長 西村 薫氏

○東広島市観光協会

理事 藤原 忠治氏

○取材担当

広報広聴委員会

西本 博之委員
 平岡 毅委員